WFP 応援団 上映会＆ディベート「飢餓を考える」

2011 年 11 月 12 日(土) 於:パシフィコ横浜共用会議室

上映会;「私たちの暮らしと世界のつながり」関西NGO協議会製作

グローバリゼーションが我々の生活にどのような影響をもたらしているのか。

このDVDではグローバリゼーションの負の影響について考えるため、貧困・格差・環境・飢餓など、 世界的 な問題と日本の暮らしの関係を、映像とデータでわ かりやすく伝えています。
内容として、1993年の冷害による米不足から日本のタイ米輸入が世界の米の需給バランスを崩し、 遠くアフリカ・セネガルの米不足を引き起こした事例 を紹介。
さらに、チョコレートや石けんなどに入っているパーム油のため、東南アジアでは多くのアブラヤシ農園が作られ、その農園のために熱帯雨林が減少してい る状況を説明。
環境破壊だけでなく、森林破壊によって都会にに移った人々がスラムに流れ、新たな貧困を生んでいることなどを取り上げています。

FAO 松田代表のショートプレゼン

国際的に取引されている穀物は全体の生産量のごく一部であり、生産量と需要量の差によって変動する在庫の量が価格に大きく影響を及ぼす。

･食糧価格が上がると農家の生産意欲が高まり生産量も増加する。

･食料を輸入に依存している経済的小国が食料価格の変動の影響を受けやすい。

･天候不良などによる農産物の不作等への過剰な反応による輸出規制が国際食料価格の高騰を誘発することがある。

･食料から作られるバイオエタノールの増加や穀物市場への投機的な資金の流入が高騰の要因となる。

･2050 年に世界人口が 90 億人を超えると食料の生産量は約 1.7 倍必要になる、人口の増加比よりも多く必要なのは穀物から肉へなどの食の変化も含まれるため。

・作付面積増加は 5%程度しか期待できず、収穫量の改善が必要。遺伝資源の活用などの技術開発がもとめられる。

･廃棄食料をどうやって減らすかも重要な問題のひとつである。

キヤノンマーケティングジャパン(CMJ) 河口氏のショートプレゼン

･キヤノンの「共生」の理念をベースとしている。

･キヤノンマーケティングジャパンの CSR の考え方

-「顧客主語」で実践する全員参加型の CSR

-従業員の CSR マインドの醸成

-CSR 活動の基盤となる「三自の精神」“自発・自治・自覚”

･日本国内で企業活動していてもあえて世界(地球)とつながるために WFP を支援している。自動販売機の飲み物を買うと一部が自動的に WFP へ寄付される。

･国内各地に拠点・取引会社があるため、日本各地の「未来につなぐふるさとプロジェクト」として NGO の活動を資金・スタッフの直接参加を通じて支援している。

･ホームページでクリック募金に参加できるのでぜひ試していただきたい。

グループディスカッションでの意見

何が必要か?私たちに何が出来るか？

・日本の食糧自給率を上げることが必要。
・途上国の出産率をさげるために女性への教育が重要。
・学校給食支援・学校菜園
・相手の国の自給率を上げるために何が出来るかを考える。
・経済中心から共生社会へ移行。
・パートナーシップが重要。
・クレジットカード会社が実施しているような会員数を増やす活動を手本にして市民の理解者を増やす。東日本大震災後は人々の考え方も変わった。
・教育がベースであるが不足している
・自給率を上げるため、農業政策を考える必要がある。規制を含めて。
・農業文化をどう守るかが大切。
・廃棄食糧を減らす努力をどう広めるか？
・まだまだ勉強しないといけない。
・女性の農業・小規模農家をキチンとしなくてはいけない。